

『ふゆめがっしょうだん』

かがくのとも傑作集 ときどき・しぜん

富成忠夫 写真 茂木透 写真 長新太 文

福音館書店 ; (1990/01)



身近にありながら見過ごしていたものに気づかせてくれる、そんな科学読物の珠玉ともいえる本が『ふゆめがっしょうだん』です。

木の葉を落として、裸になった木々。でも枝に顔を近づけてみると、ほら、春を待つ冬芽にサルの顔、ウマの顔、妖精の顔などいろんな顔が見えてきます。この本には、そんなおどけた顔・顔・顔が、いっぱい笑っています。

そして、この本全体をつつみこむ長新太さんのあったかい詩。

歌うようにゆっくり読むと、もうそこまで春がやってくる期待に胸がふくらみます。

冬枯れの木に、こんな楽しい一面があったなんて！散歩するたびに、雑木林や公園の木の芽に動物の顔を探しています。